

2月15日 (火)

逃げるか 達成するか

聖書朗読 ルカ 22:39~46

私たちは神の作品であって、良い行いをするためにキリスト・イエスにあって造られたのです。
エペソ 2:10

イエス様はゲッセマネで十字架につかれる前にお祈りをしていました。そこで、主であるイエス様が望まれていたら、簡単に天使の大群を呼び、苦しみから逃れることもできましたし、拷問も嘲笑も十字架上の死もありませんでした。また、ペテロに力があつたなら、大天使を呼んでエルサレム全体を滅ぼし、イエス様の十字架をなくしてしまうこともできたでしょう。しかし、そうなれば、ペテロはイエス様がこの世に遣わされた使命を全うすることを妨げることになってしまいました。ペテロの行動は知識ではなく情熱にのみ動かされたものでした。それゆえ、彼はイエス様を三度知らないといって自分の身を守ったのです。

ところで、私たちには、色々な心の傷があります。その傷は、考えずに自分が自分を守るために自然にした、当たり前前の行動によってついた傷かも知れません。しかし、私たちは神様からクリスチャンとしての高い基準を与えられています。自分を守るために逃げるのではなく、達成する人生です。重荷や悲しみが耐えきれないと感じた時にはイエス様がどうされたかを思い返しましょう。神が喜ばれるのはどういうことかを考えましょう。イエス様は神に全てを託し、神の計画がなされるよう委ねたのです。あなたにも天の計画が与えられています。

「私たちは神の作品であって、良い行いをするために
キリスト・イエスにあって造られたのです。

神は、私たちがよい行いに歩むように、
その良い行いをもあらかじめ備えてくださったのです。」

—エペソ人への手紙 2:10

讃美歌 270

祈り 神様、仕えるという権利を与えてくださったことを感謝します。あなたからの力を求め、あなたに栄光を返すため、計画を全うする情熱をお与えください。イエス様の御名を通して、お祈りいたします。アーメン。

ウィリアム・マクドノウ
アーカンソー州 マウメル

2月16日 (水)

溢れる私の杯

聖書朗読 ヨハネ1:7~14

私の杯は、あふれています。

詩篇 23:5

私はお皿のついたティーカップでお茶を飲むのが好きです。片手でお皿(ソーサー)を持ってもう片方でカップを持つので、自然と両手を使わなくてはいけいからです。バランスを取るために集中する必要もあります。カップとお皿(ソーサー)を持ちながら、本を読んだり、何かを書いたりすることはできません。時々、カップにお茶を注ぎすぎて、カップを持って椅子に腰かけるまでに、お皿(ソーサー)にこぼれてしまうことがあります。欲張りすぎですね。でも、陶器のティーカップがお茶を絶品にするのです。そして、それをお皿が受け止めるので、最後の一滴までも無駄にならないのです。

これは私がヨハネ1章を読むときに思い浮かべる絵です。ヨハネ1章は、私の心を満たし、圧倒させ、心や考えでは受け止められないほど測り知れない思いを与えてくれます。その神の言葉は、人となったキリスト神の子を通して、永遠の命の水を飲む全ての心を満たすのです。その水を飲むものは喜びに満ち溢れ踊りだします。そして、愛する人たちにその喜びを宣べ伝えるのです。

彼らが飲むのはキリストそのものなのです。なんと栄光でしょうか。そしてその栄光は十分にあるのです。ヨハネは「その方は恵みとまことに満ちておられた」と書いています。

キリストにある神の愛はあなたの心にも溢れていますか? あなたはそれを味わうことができますか? 是非今日味わってください、神様はあなたを思いがけない恵で祝福されています。今日の働きのために、御言葉をゆっくり受け入れましょう。私たちが周りの人を愛する時に溢れるコップの絵を覚えましょう。神が満たし、私たちが注ぐのです。

讃美歌 II161

祈り 素晴らしい神様、イエス様。あなたが私たちの罪のためにこの世に来てくださったこと、私たちに気づきと導きを与える聖霊を与えてくださったことを感謝いたします。私の杯は、溢れています。

イエス様の御名を通して、お祈りいたします。アーメン。

オナイダ・ゲージ
テキサス州 サンアントニオ

2月17日(木)

心からの礼拝

聖書朗読 ヨハネ9:35~41

「神の御使いはみな、彼を拝め。」

ヘブル 1:6

礼拝で賛美をしていた時、私の右にいた一人の女性に目が留まりました。彼女は目を閉じて、手の平を上にして前に出していました。彼女は神様への情熱的な賛美で満ちていました。彼女は喜びと感謝、謙遜と愛のハーモニーに深く関わっているようにみえました。彼女の心の中で何が起こっていたのかは知りませんが、私の心は動かされました。

ヨハネは、産まれた時から目が見えなかった男が、イエス様に癒された経験を通して信仰を強めていった様子を細かく描写しています。目が開かれたとき、彼はイエス様のことを「イエスという方」(11節)と呼び、パリサイ人には「あの方は預言者です」(17節)と言ったあと、「神から出た方」(33節)であると宣言しました。彼は熱心に、喜びを持ってイエス様の行動を伝えたのです。最終的にそれは、イエス様は「神の子」(38節)であるという彼の告白になっていたのです。彼の信仰がイエス様への賛美になったのです。

私たちの信仰がこれからも成長し、礼拝する気持ちがさらに強まりますように、祈りに溢れ、情熱的に、謙遜な心を持ち、愛に満たされて、感謝を持って礼拝に臨めますように。神様は賛美に値する方です。

讃美歌 79

祈り 天の父なる神様、どうか私たちが心を整えて礼拝に臨むことができますように。私たちはあなたの愛と、あなたが与えてくださったひとり子に感謝いたします。

イエス様の御名を通して、お祈りいたします。アーメン。

マイケル・A・オニール
フロリダ州 タイタスビル

2月18日(金)

常に開かれた扉

聖書朗読 ヨハネ10:1~9

わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てます。ハデスの門もそれには打ち勝てません。
マタイ 16:18

私が幼いころ、多くの教会の扉は礼拝中、常に開かれていた記憶があります。好きな時に出入りできますし、会堂の中を風が通るのも感じられました。今ではそのようなことも少なくなりました。教会の建物は、必要時以外鍵をかけられ、防犯システムが導入されている場合もあります。

教会は閉じられている建物ではありません。神が扉となり、神のもとに来る全ての人を迎え入れる用意をされている場所です。

神の教会は決して閉ざされることはありません(マタイ16:18)。私たちが実際に集うことは大切なことなのです(ヘブル10:23~25)、しかし建物そのものが教会ではないのです。クリスチャンこそが教会を建てる石であり、イエス様がその礎の石、かしらなのです(マタイ21:42; Iペテロ2:4~8; コロサイ1:18)。クリスチャンは賛美と献身の人生を教会の中と外を行き来しながら生きています。その扉はいつでも私たちが天の父なる神様を賛美し礼拝できるように開かれています。

讃美歌 267

祈り 父なる神様、どうか私たちがあなたのことを、またどこにいらっしやるのかを忘れないでいられますように。イエス様がいつでもあなたへの扉を開いてくださっていること、私たちはいつでもどこでもあなたを賛美し礼拝することが許されていることを覚えていられるよう助けてください。

イエス様の御名を通して、お祈りいたします。アーメン。

セラーズ・S・クレイン, JR
テネシー州 ヘンダーソンビル

2月19日(土)

私がしたようにしなさい

聖書朗読 ヨハネ13:12~27

御名を知る者はあなたに拠り頼みます。主よ。あなたはあなたを尋ね求めるものをお見捨てになりませんでした。
詩篇 9:10

300メートルもある崖にぶら下がりながら私の友達は、私の「信じますか?」という無言の質問に命を懸けて答えました。彼は、強い絆で結ばれていた友人を助けようと手を伸ばす私の装備やロープの結び目を疑うことはありませんでした。私がしたように、彼も私を信頼したのです。

十字架に架けられる前日の夜、弟子たちの足を洗い終えた、私たちの先生であり主であるイエス様は弟子たちに「私がしたようにしなさい」とおっしゃいました。そのあとの数時間、弟子たちがイエス様についていくのは、どのような気持だったことでしょうか。イエス様に対する疑いがあったのでしょうか。それとも、自分はイエス様のようになりたくないと思ったのでしょうか。そして、ある者は去り、ついていった者たちも距離をおきました。

私たちはどうでしょうか? 私たちは、知らない人たちに両手を広げられるくらい神様を信頼していますか。私たちの時間、お金をすべて神様に委ねられるのでしょうか。神様の導きに従うほど信頼していますか? ありがたいことに、私は友人の信頼を裏切らずに済みました。彼のロッククライミングは良い思い出と達成感に満ちた経験となりました。

イエス様はもちろん信頼に値する人です、そしてイエス様を信頼することは最も価値のあることです。あなたはイエス様を信じますか?

讃美歌 285

祈り 神様、全てが上手くいっているときにあなたを信頼しますということは簡単に感じます。しかし、私たちの勇気が失われたとき、どうか私たちに力をお与えください。あなたの道を歩めるようお助けください。

イエス様の御名を通して、お祈りいたします。アーメン。

ドリュー・ベイカー
ノースカロライナ州 ルイスビル

2月20日(日)

恐れる必要はありません!

聖書朗読 ヨハネ16:5~16

主は、すべてのわざわいから、あなたを守り、あなたのいのちを守られる。
詩篇 121:7

このディボーションナルを書くにあたって、指定された聖句を呼んだ時「恐れてはいけません」という聖句を思い出しました。

私たちを決して離さず、見捨てないと約束されたイエス様は、恐れてはならないと強調されました—それは今日もです。この世界では今でも40以上の争いが起こっています。政治、行政、歴史、メディア、教育、気候変動、宗教、経済、などなどその理由を挙げだしたら切りがありません。イエス様の「恐れてはいけません!」という教えはこの全ての争いに当てはまるのです。神様はご計画をお持ちです。神様は私たちに御心を、善意を、そして神様がこの状況を解決する方法を信頼するよう求められます。

ですから、神様に繋がり続け、信頼して神様の導きに従いましょう。あなたを不安にする全てのものから目を離しましょう。代わりに神様と神様が与えられた約束に目を向け、全ての不安を神様に委ねましょう。そしてどんな状況においても神様に感謝しましょう、それが神様があなたに望んでおられることだからです。

神様こそ真理であり、その方が「恐れるな。私の平安を与えます」とおっしゃられるのです。

讃美歌 295

祈り イエス様、どうか私たちが恐れや心配をあなたにお委ねして、あなたが与えて下さるとお約束して下さった平安を経験することができますように。私とともにいて下さることを感謝します。私はあなたを信頼します。

イエス様の御名を通して、お祈りいたします。アーメン。

ヴァルジー・A・ニーマン
ヨーク州 ネブラスカ